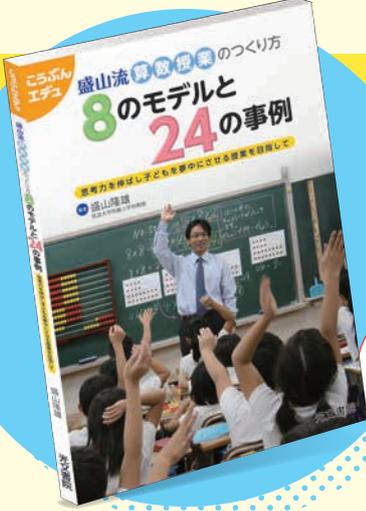


子どもたちが
夢中になる
算数教材が満載！



東京都在住
S.Y. 先生(20代男性)

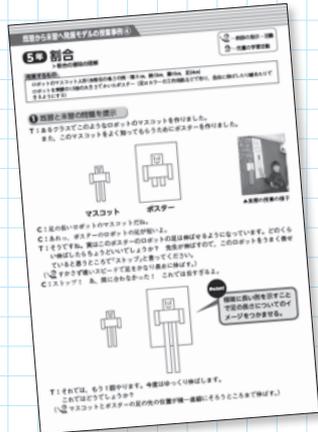


B5判：144P
定価：
1,429円＋税

「おもしろくてわかる」
割合の導入の教材



割合は子どもにとって理解しづらい単元です。導入の時点ではまだ割合のイメージが確立されていないので、数値だけで問題を解決しなければなりません。そのため、なんとなくわり算を使つて答えを求めるといふことが頭に残るだけになりがちです。そこで、導入で子どもたちを惹き付け、かつ理解を深めることのできる教材を考えていたところ、盛山先生の実践例にたどり着きました。



ロボットのマスケットとポスターを使った割合の導入の授業実践例。

手作りロボットに
子どもたちも興味津々



この教材の長所の二つ目は、子どもが「調べてみたい」と思うような課題設定になっていることです。要

になるロボットとポスターは、図工専科の先生の協力を得ながら、子どもたちに気に入ってもらえるよう丁寧に作りました。足が長く伸びるしかけも忘れずに付けています。

いざ授業を迎えると、足が伸びる様子を見て手を叩いて笑う子どももいて、すぐに興味をもつて楽しみながら課題に取り組んでいました。「AはBの何倍か」を求めるときはかけ算ではなくわり算を使うという点も確認しつつ、誰かが置き去りになることなく学習を進めることができました。

割合を視覚的に捉えて
イメージを掴む



長所の二つ目は、割合に関する言葉が子どもたちから出てくることです。本教材の特徴は数値だけでなく実物を見て比べることができ点にあります。つまり視覚的に割合を捉えることができるので、割合のイメージをもたせやすくなるのです。それによつて「腕の長さを1とすると足の長さは2にあたる」といった表現が自然に発せられ、割合を表す言

葉として共通認識を得ることができました。そして、徐々に割合の感覚を掴んでいくことができたのです。

授業を進める上で気を付けたのは、本書の「ねらいと解説」でも触れられています。整数倍の割合を求めた後に、帯小数倍、純小数倍という順番で扱ったところです。

この後の授業展開では、数値だけで学習を進めていきました。割合のイメージをもつという素地が形成されていたおかげで、子どもたちは2量の関係をきちんと把握しながら問題を解くことができました。

後日、ロボットとポスターを教室に掲示しておいたら、子どもたちは休み時間のたびにこれを使つて互いに問題を出し合っていました。ロボットとポスターの作成に多少時間がかかりましたが、マスケットは大いに活躍してくれた割合のヒーローとなりました。



S先生が授業で実際に使用したポスターとロボットのマスケット